

創建事由（一六八八〜一七〇四）

廻船問屋を営む新店藤左衛門は、ある夜伊豆沖で大暴風雨にあつて、藤左衛門の乗る船は海難に遭い難破してしまった。藤左衛門は金毘羅大権現を念じつつ海上を漂流中に、金刀毘羅と書かれた樽を発見し、樽に身を任せ浮流され伊豆海岸に漂着した。樽中のお神酒を皆に与え体を温め無事に生還することが出来ました。

これにより、金毘羅大権現の御神徳となり藤左衛門始め船頭一同が感謝して社殿を創建したと伝えられる。

昭和十一年十二月（一九三六）金刀比羅神社遷宮

昭和十二年四月（一九三七）

町内和田貞吉氏のご好意により南湖三・三・四十（現在地）の土地が譲渡され、社殿が新たに建立されました。

これは、ひとえに金毘羅大権現のお陰と感謝し、氏子の尊敬を受け地域住民あげて尊崇する社となりました。

社号変更 明治二年（一八六九）

神仏判然令により、旧社号「金毘羅大権現」を「金刀比羅神社」と改称しました。

社殿 権現造り銅板葺

社殿改修 昭和五十五年（一九八〇）